

事業ドメインと事業の方向性に関する検討

福井県立大学経済学部
小倉研究室編

目次

1. 事業ドメインとは何か
2. 事業ドメインを規定する経営的な意味合い
3. ドメインを規定する要件
4. ドメイン概念を使用する利点
5. 日東電工の事業ドメイン
6. アスクルの事業ドメイン
7. 事業の方向性について検討する経営的意義
8. 事業の方向性を規定する要因
9. 製品・市場マトリックスの拡張による現実適用
10. 拡大図式による新規事業進出のモデル図

1. 事業ドメインとは何か

- 事業ドメインとは、事業領域のこと
- 事業を出発させるにあたり、事業の大まかな内容を規定するには、どういう検討が必要かという問題意識から出てきた。その場合、事業の大まかな内容を規定するには、主要な事業要件をなすものからの検討も必要であるが、同時に他の事業との違いや境界を意識することも大事である。事業をつかむ手っ取り早さの点からいえば、むしろ他の事業との境界をより意識して事業規定した方がよい。ドメインという用語が使われる背景にはこうしたことがある

2. 事業ドメインを規定する経営的な意味合い

□ 事業内容を大まかに規定するため

こうした規定をしておくことで、自社の事業の総体について客観的に把握する下地ができる

□ 事業内容を規定する上での手続きに関する考え方

事業内容を規定する手っ取り早さの点からすると、他の事業との違いや境界を意識したかたちで行なうのがよい

□ これが事業ドメインの明確化ということである

3. ドメインを規定する要件

通常は次の3つ

□ 顧客ニーズ

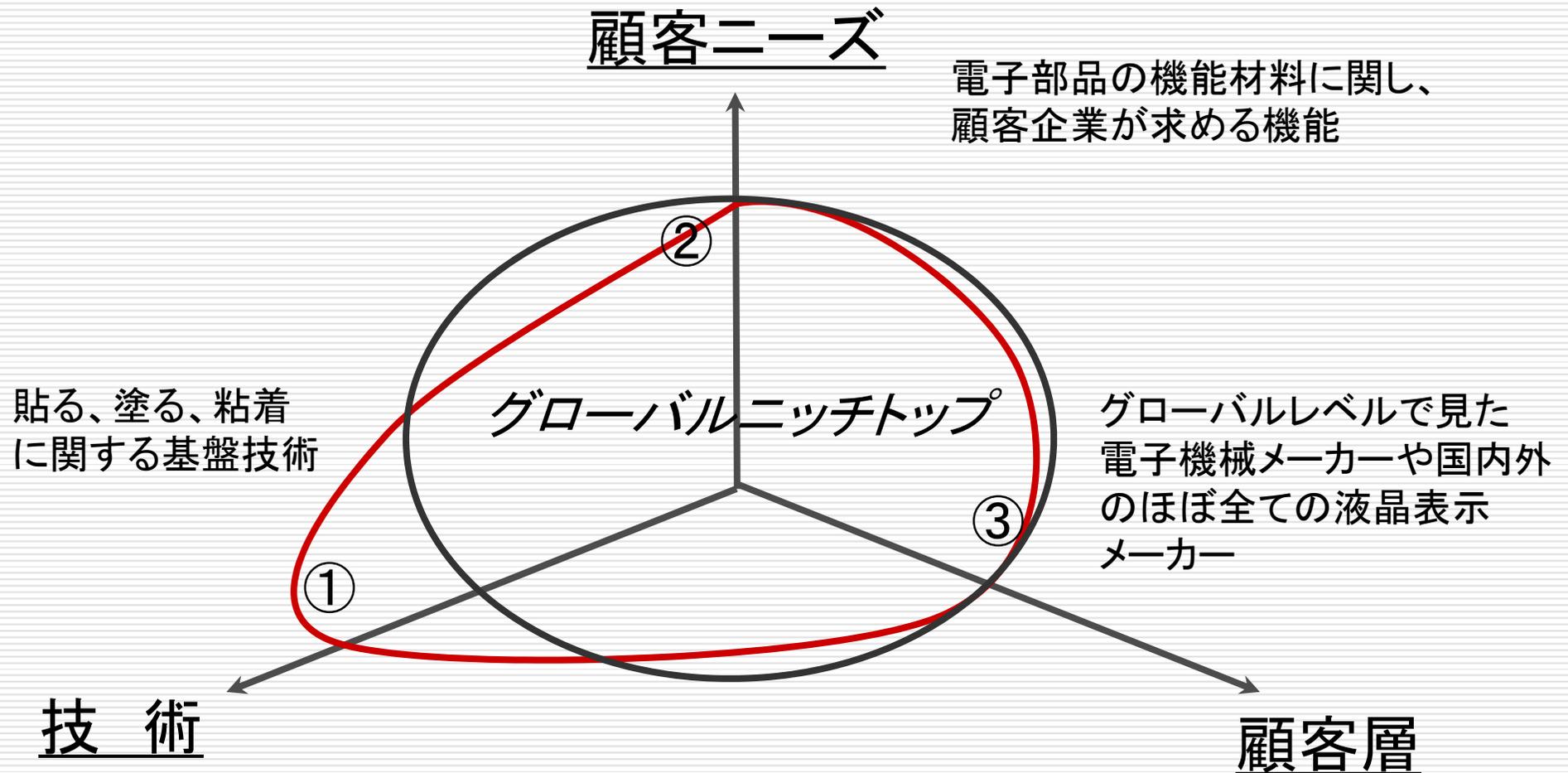
□ 顧客層

□ 技術

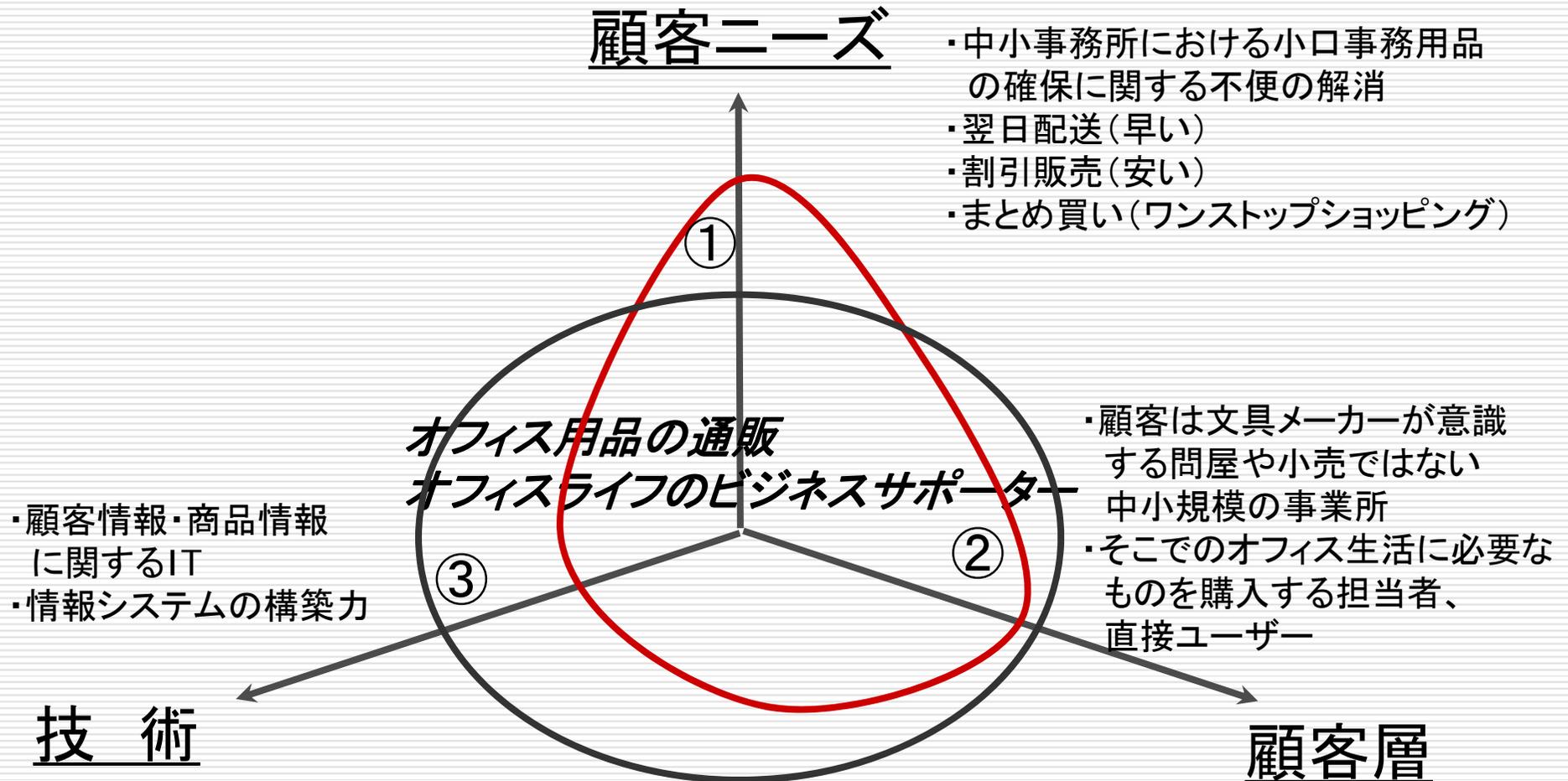
4. ドメイン概念を使用する利点

- 感覚的・視覚的なかたちで、自社の事業内容を大まかに示すことができる
- 自社が強みとするコア領域を明確にできる
- 基本事業領域を意識することにより、事業領域の拡大に規律をもたらすことができる
- 自社の事業の内容や事業の強みに関して、絶えざる見直しをするのに役立つ

5. 日東電工の事業ドメイン



6. アスクルの事業ドメイン



7. 事業の方向性について検討する 経営的意義

□ 事業領域の検討と事業の方向性に関する検討の違い

事業領域の検討は、事業の位置どりや、あるいは事業特性を把握する上で意味がある。また、事業の存在意義を明示することにも役立つ。

これに対して、事業の方向性を検討することは、企業の成長発展の道筋を検討することである。したがって、これは目的・目標との関連ということであれば、事業領域の検討とは違ったかたちで、目的達成の方法と経路についてより具体的に検討することになる。

8. 事業の方向性を規定する要因

- 製品と市場を軸にとり、企業成長の方向性を示す
これが成長マトリックス図式

k

		製品	
		現製品	新製品
市場	現市場	市場浸透	新製品開発
	新市場	新市場開拓	多角化

9. 製品・市場マトリックスの拡張による 現実適用

□ 変数を技術×市場に変える 日東電工の三新活動の説明図

技術 \ 市場		技 術	
		現 行	新 規
市 場	現 行	現行事業	新製品開発 ②
	新 規	新用途開拓 ①	新需要創造 ③(①②の積み重ね)

10. 拡大図式による新規事業進出のモデル図

- リスクが少なく、シナジー効果も見込める関連した製品・市場への進出

製品・技術 \ 市場	同じような製品・技術	関連した製品・技術	異なった製品
同じような市場	低いリスク 市場浸透	関連した製品・ 市場の広がり具 合	高いリスク 製品開発
関連した市場			
異なった市場	高いリスク 市場開発	日東電工のグ ローバルニッチ トップ戦略	過大なリスク 多角化